

種名	<u>コ</u> <u>イ</u> <u>Cyprinus carpio</u> 
分類	コイ科コイ亜科コイ属
俗称	マゴイ・ノゴイ(日本各地)
形態的な特徴	形態はフナに似るが、上顎に2対の口ひげがあることで区別ができる。全長は 60cm ほどまで達するものが普通であるが、中には1mを越える大物もいる。
分布	ほぼ日本全土に分布するが古くから放流が盛んに行われていたため、天然分布域の詳細は不明である。
繁殖行動	産卵期は4～7月頃で、産卵は水草の茂ったごく浅い水域に乗り上げるようにして行われ、卵は水草などに産みつけられる。卵は一回の産卵につき 20～60 万粒で成熟までには2、3年かかり、寿命は永く一般的には 20 年ほどだが、70～80 年生きるものもいる。
生息場所	大河川の中・下流域の淀みや流れの緩やかな淵、湖沼などに生息する。フナ類よりも水域内の底層部を好む。
食性	食性はやや肉食に偏った雑食性でタニシなどの貝類やユスリカ幼虫、イトミミズ、水草、付着藻類などを食べる。とくに貝類が好物で咽頭歯で砕いて食べる。
生息環境への配慮事項	放流により、錦鯉などを含め都市河川でもよく見られる魚である。食用として用いられていることもあり、養殖や品種改良も行われ様々な種類のコイが見られる。このように本種は各地の河川や湖沼、ため池などに普通に見られるが、多くの場合放流したものが数年、数十年とすみついているためであり、自然繁殖であることを確認する機会はほとんどなくなった。本種は水質の悪化にも強く、積極的に放流されていることから日本各地の様々な場所に生息しているが、稚魚や幼魚を見かけることは少ない。これは本種の産卵場となる水草帯が護岸工事などにより消失してしまうことや河川本流または湖沼から産卵可能な水域への移動が妨げられていることによる。本種の個体数を放流によって確保するのではなく、自然に繁殖させて保全するのであれば水草帯を保全するなどの策が必要となる。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	